



大病に勝ちてフイギュアの妖精は希望の華をトリノに咲かす
優雅なる舞に闘志を燃やしたる金メダルの笑み感動湧きぬ
白れんの花の命の短かかり一夜の霜に老ひさびにける
七人が五人となりて姉九十親の三十三回忌集う
お守りと百一才の長寿錢吾娘より賜り涙の吾は
若桧芯を折られて迷うて上枝起てれば芯と育くむ
寒暖の変化に戸惑い一泊の旅の支度や心悩ます
吾が従兄弟亡妻の遺影を机辺に眞實一路貫き通す
鶯の優しき声に誘われて鳴き真似つたう雅遊となりて
満場の喝采に湧き凜として氷上の華は世界を征す
世の中を見つめて伸し此の立木今伐り出され何か佗しき
金メダル得し銀盤の舞姿いくたび見ても感涙のわく
水上に華麗な舞にて金となり日本に優雅な誇りもたらす
峠の木々明るき光に覚め初めむ嚴冬耐えし愛し自然よ
変る世の波乗り越えた人生を振り返りみる今日此の頃

引間豊作選

投稿数23句

潤ひの日毎につのる芽吹かな	下日野沢 植木 豊子	三沢 新井 民子
やわらかな日差しの中に春のこえ	國神 松岡 千恵	三沢 真下 杏子
此の頃の三寒四温に戸惑ひぬ	皆野 早苗	皆野 橋 月子
春雨や息子の住む街を素通りす	下田野 中田 久恵	下田野 根岸 進
臘梅や瀬を見下す大鳥居	金沢 関和 起一	饅うたに聞き耳立てる床の中
まだ土の匂ひが勝ちて青き踏む	皆野 桜井 早苗	水墨西画薄墨滲む白椿
おろおろと足の痛みや春近き	皆野 大沼シヅ子	火渡りの法螺のひびかふ春の宝登山
お守りと百一才の長寿錢吾娘より賜り涙の吾は	金沢 関和 起一	菜の花や湯布院樂し旅三日
若桧芯を折られて迷うて上枝起てれば芯と育くむ	皆野 新井 茂	饅頭の香り際だつ春の午後
寒暖の変化に戸惑い一泊の旅の支度や心悩ます	皆野 佐藤 清子	下田野 沢野 恒平
吾が従兄弟亡妻の遺影を机辺に眞實一路貫き通す	皆野 野巻 民子	皆野 新井 愛子
鶯の優しき声に誘われて鳴き真似つたう雅遊となりて	皆野 野巻 民子	皆野 笠原三江子
満場の喝采に湧き凜として氷上の華は世界を征す	皆野 野巻 民子	新井 茂
世の中を見つめて伸し此の立木今伐り出され何か佗しき	皆野 野巻 民子	金子善次郎
金メダル得し銀盤の舞姿いくたび見ても感涙のわく	皆野 野巻 民子	町田 忠次
水上に華麗な舞にて金となり日本に優雅な誇りもたらす	皆野 野巻 民子	小河トミ子
峠の木々明るき光に覚め初めむ嚴冬耐えし愛し自然よ	皆野 野巻 民子	塩田 千代
変る世の波乗り越えた人生を振り返りみる今日此の頃	皆野 野巻 民子	藤田 忠次

(評) 屋号にも慣れし幾年梅の花
都會ではまず詠めない句で、田舎の場合地形とか風物、或いはご当主の呼び等々、色いろの答の一言で、それと解る通称を持ち、ここもそうした家亭で親しまれている家と思う。振り返ると嫁してもう久しい。近くの山も川もまた屋敷木のあれもこれもみな歳月とともにした仲間で、家族との想い出の主役をつとめるのが、この梅であろうか。次に芽吹きの句、春の日差しに目を追つて、木々の芽にはそれぞれが特色をもち、浅緑や薄紅の色の生命力強さを感じさせ、古歌にはこれを「木の芽張る」と言つて讃嘆した作品が多く遺されている。

初初しきひかり放ちて地虫出ず

三沢 真下 杏子

春拾おしゃれ心の試着かな

皆野 橋 月子

雛うたに聞き耳立てる床の中

下田野 根岸 進

火渡りの法螺のひびかふ春の宝登山

三沢 新井 茂

菜の花や湯布院樂し旅三日

皆野 新井 茂

饅頭の香り際だつ春の午後

下田野 沢野 恒平

水墨西画薄墨滲む白椿

皆野 新井 茂

火渡りの法螺のひびかふ春の宝登山

三沢 新井 茂

菜の花や湯布院樂し旅三日

皆野 新井 茂

饅頭の香り際だつ春の午後

下田野 沢野 恒平

水墨西画薄墨滲む白椿

皆野 新井 茂

火渡りの法螺のひびかふ春の宝登山

三沢 新井 茂

菜の花や湯布院樂し旅三日

皆野 新井 茂

饅頭の香り際だつ春の午後

三沢 新井 茂

火渡りの法螺のひびかふ春の宝登山

皆野 新井 茂

※今月号から短歌の評を取り止め、俳句・短歌とともに15作品を掲載します。

俳句・短歌を募集
(8日必着)

作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して企画課へお寄せください。
1人1句、1首に限ります。